

有床義歯の最近の動向と臨床技工のエビデンス

歯科治療における補綴物の種類とその用途は多種多様であるが、とりわけ無歯顎者の補綴においては、咀嚼機能、発音機能、また審美や顔貌との調和を要求される。言い換えれば、失われた身体機能を補う人工臓器としての役割が求められる。

それゆえに有床義歯製作の目的は、義歯の安定や機能性、審美性をいかに確保するかを主眼として、また咀嚼筋、顎関節、中枢神経を含めた咀嚼系機能をよく理解し、生理学的、機能的咬合の構築と生体に調和した活力ある咬合状態、顎位、咀嚼筋群、歯槽粘膜、顔面表情筋等を回復へ導くことができる歯科技工が大切である。

これらの目的を達成するために、また患者さんにとってより良い補綴物を提供していくためには、私たち歯科技工士が補綴物製作の各工程における基本的コンセプトを確実に理解し、それを臨床に活かしていく姿勢と努力が重要になると考える。

そこで今回は、医療先進国で多く行われてきているB.P.S.（生体機能補綴システム）のコンセプトからチェアサイドとラボサイドのリレーションについて、根拠のある歯科技工、エビデンスを求めた臨床技工を述べたいと思う。

時間の許す限りディスカッションも交え、有意義かつ実りのある研修会としたい。